

安全教育



令和4年
2月25日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
メールアドレス: info@anshinkai.or.jp ホームページ: http://anshinkai.or.jp/

事業見直しを未来志向で

理事長 横田 竜一



新型コロナウイルス感染症の収束が見通せません。学校は、これから卒業や入学、そして進級など大切な時期を迎えます。会員の皆様におかれましては、ご心配な日々をお過ごしのことと存じます。この会報がお手元に届く頃には、少しでも状況がよくなってくれていることを祈るばかりです。安振会といたしましては、頑張っている皆様に少しでも応援できるよう、事業の充実を図ってまいります。

令和4年度実施予定事業 with コロナ

1. 見舞金等給付事業
2. 安全普及啓発活動（防災安全教室、救命救急法教室）
3. 供花料等給付事業
4. 団体助成事業（単位PTA事業助成、区部会PTA事業助成、青少年育成団体事業助成）
5. 修学奨励金給付事業
6. 賠償責任補償制度

実施する事業は令和3年度と同じです。ただし、これからはコロナを前提に考えていくことが求められそうです。事業名が同じでも、with コロナバージョンになる事業もあります。都度、文書やHPでお知らせいたしますのでご確認ください。

公益目的支出計画終了が視野に

安振会は、平成26年度から一般財団法人となりました。それに伴い、税制上の優遇などによって法人内部に保有した財産（公益目的財産額相当額）を公益目的の事業で使い切るようになりました。そこで安振会は、団体助成事業と修学奨励金給付事業の二つを公益目的の事業とし、11年間で使い切る計画を立てました。計

画では令和6年度（令和7年3月31日まで）が終了予定です。※

未来志向で事業見直し

安振会では会費を ①共済掛金 ②賠償責任保険 ③供花料等 ④法人運営（管理費）の四つに振り分けて使っています。そこに公益目的の事業である団体助成事業と修学奨励金給付事業の二つは入っていません。公益目的の財産がなくなれば、事業の継続は不可能です。しかし、二つの事業はこれまで一定の役割を果たしてきました。財源消化、即事業の終了というわけにはいきません。中核である見舞金給付事業の継続は当然ですが、会員の皆様のニーズにお応えできるように未来志向で、充実を図る事業、縮小する事業等を考え、決定していきたいと考えます。

理事会・評議員会で決定します

理事・監事・評議員は、会員の皆様の代表です。理事会や評議員会において、見舞金等の給付や団体助成などについて審議することと並行して、令和7年度以降の事業をどうするかについて考えてまいります。令和5年度にはほぼ決定し、令和6年度には会員の皆様への説明や周知を図り、令和7年度から実施できるようにいたします。会員の皆様にはこまめにHP等でお知らせいたします。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

※令和6年度をもって終了予定の公益目的支出計画ですが、コロナ禍により思うように進まないことも考えられます。計画の延長も考えられます。来年度末にははっきり見えてくると思いますので、会員の皆様には改めてお知らせいたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

横浜市立港南中学校

生徒が主体的に考え、 けがや病気を未然に防ぐ活動

1 はじめに

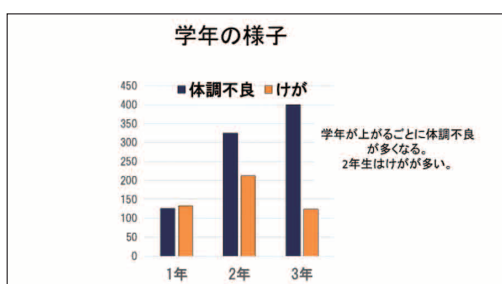
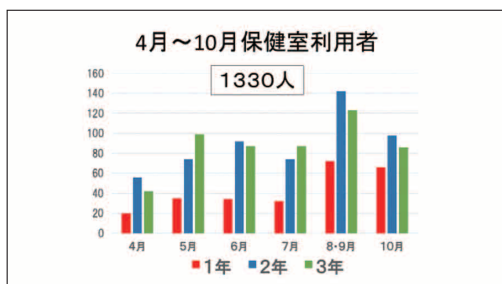
本校は「学び、考え、共に生きる」を教育目標とし、主体的・計画的に学力や体力の向上を図り、自らより良い生活環境や人間関係を構築できる生徒の育成に取り組んでいます。生徒たちは文武両道を実現すべく、学習も運動も大変熱心に取り組んでいます。とりわけ部活動は盛んであり、この3年間では、陸上部や水泳部、バスケットボール部が全国大会への出場を果たしています。

しかし、保健委員会が生徒のけがや病気について調査したところ、部活動や保健体育といった運動中のけがが非常に多いことがわかりました。また、体力があるはずの生徒たちも、朝から体調がすぐれず、保健室で休む生徒が多数いることがわかりました。

そこで、保健委員会では、けがや病気を未然に防ぐため、外的要因、内的要因の両面を探り、具体的な解決方法を考えることとしました。

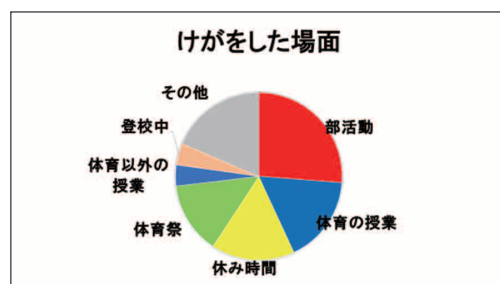
2 生徒たちのけがや病気の状況

着目した数値は、保健室の利用者数やその理由です。部活動の取組を反映し、5月から7月は3年生のけがが多く、9月以降は2年生のけがが多くなっています。体調不良者の数は、学年が上がるごとに増加しています。



①外的要因の分析

けがをした場面は部活動が最も多かったため、保健委員会では運動部の活動場所を一つ一つ調べ、部員に聞き取りをするなどして、その原因を探りました。



すると、ウォームアップとして多くの部活動がランニングをする「外周」に複数の危険な箇所があり、けがの多くがここで発生していることがわかりました。

部員たちへの聞き取りの結果では、どの部活動でも「狭いところで前を走る人にぶつかりそうになり転んだ。」や「マンホールのふたの上で滑った。」といった回答が多くありました。



【飛び出した階段の角】



【木の根で膨らんだ地面】



【急に狭くなる個所】



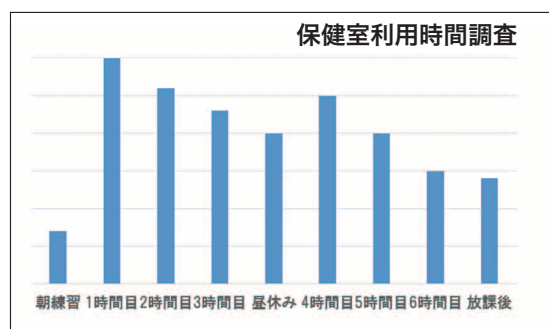
【外周を走る生徒】

そこで、外的要因を調査研究したグループでは、それぞれの要因に対する解決策を考え、写真付きで各部に提示したり、先生に相談して環境改善を図ったりしました。具体的には「どの部活もカーブや狭くなる場所で声をかける」、「部活動ごとに走る日を決めて徹底する」といった意識やシステムの変革を促すものや「事故の多かったコーナーにカーブミラーをつける」などといった物的な環境整備を学校に求めるものでした。

②内的要因の分析

次に、内的要因を調査研究したグループは、一日のうちの時間に保健室を利用するケースが多いのかについて分析しました。すると、1時間目が最も多く、一般生徒への聞き取りから、睡眠や食事が関係していることがわかってきました。

朝具合が悪くなった生徒が、考えられる原因として回答したのは、「朝ご飯を食べられなかった。」や「就寝直前までスマホを見ていてよく眠れなかった。」、「朝起きてから水分をあまりとっていない。」でした。



グループでは、調査結果を分析し考察を加え、解決策として食習慣を見直し、改善していくことが必要であると考察、外部の専門家を招聘して講演をしてもらい、食事について考える機会を作りたいと考えました。

3 けがや病気を未然に防ぐ食事とは

12月には保健委員会を開催し、前半はグループが調べた校内自動販売機のジュースの成分とそれに対する考察についての報告を行い、後半は横浜F・マリノスのトレーナーによる「将来に向かっての食習慣づくり」の講演を聞きました。

①校内の自動販売機にあるジュースの調査

校内にある4台の販売機で扱っている飲み物について、糖分や添加物などの成分について調査しました。



②外部講師による講演

横浜F・マリノスの望月選コーチにお越しいただき、健康な心と体づくりや学校体育や部活動におけるけがの予防、早期回復には、バランスよく食事を摂ることが大切だというお話をいただきました。また、食事を摂る時間を一定にすることが生活のリズムを作り、コンディションを良くして、スポーツや学習の集中力を高めるというお話では、生徒たちはうなずきながら必死にメモを取っていました。



生徒の感想には「栄養素を考えることが大切だと知り、いつもは母の出してくれる食事を食べるだけだけど、自分で作ってみようと思った。」といったものや「お風呂上がりのストレッチの効果を教えてもらい、早速今日からやってみようと思う。」などがあり、主体的に食事や健康について考えようとする姿勢が育っていることが感じられました。

4 調査研究結果の報告と啓発

保健委員会による調査研究結果については、次のような扱いとし、生徒や保護者のけがや病気の未然防止に向けた啓発としました。

- ①調査研究の内容及びそれに対する考察を模造紙にまとめ、保健室前に掲示
- ②全校集会で、けがや病気を未然に防止するために意識すべきことを簡潔に伝達
- ③「保健だより」で、けがや病気の未然防止に向けた必要な知識や具体的な取組を詳しく紹介

この調査研究は、生徒たちが自らの課題を客観的なデータに基づいて取り上げたところからスタートしました。生徒たちは、養護教諭や栄養教諭、PTA保健委員、学校薬剤師など様々な人に支えてもらいながら、食や健康に対する意識を高め、主体的に取り組もうとする態度を伸長しており、次の中期学校経営方針でも重点的に取り上げていきたいと考えています。

〈調査研究委託事業〉

横浜市PTA連絡協議会

未来の創り手となる子どもたちのために、大人としてPTAとしてできること

講演：近藤 昭一 氏（神奈川大学特任教授）

横浜市PTA連絡協議会は、「大人も育とう、子どもと共に ～つながる想い 新しい時代へ～」をスローガンとして掲げ、活動を行っています。昨今、PTAを含む地域コミュニティが抱える課題が取りざたされていることに鑑み、あらためて子どもたちのために大人としてできることを認識し、PTA活動の意義を深掘りする機会として、役員・理事を対象とする研修会を企画しました。2021年12月15日、市内18区PTA連絡協議会、高等学校部会、特別支援学校部会の代表である理事が出席し、神奈川大学特任教授の近藤昭一先生をお迎えし、ご講演いただきました。

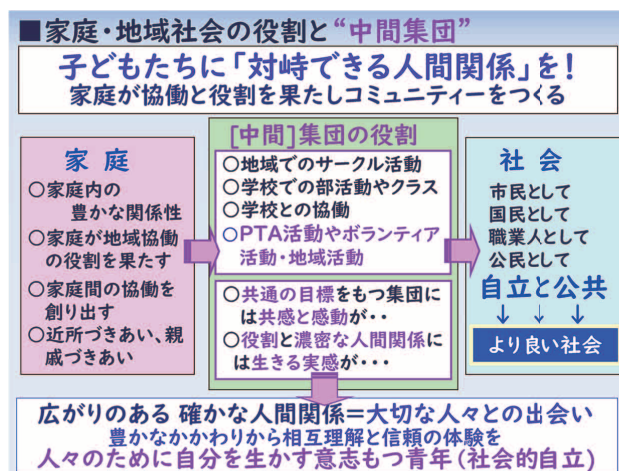
近藤昭一先生は、1974年から22年間横浜市中学校教諭として勤務され、同市立中学校および高等学校の校長、横浜市教育委員会生徒指導担当部長など務められました。2012年以降は大学において、教師を目指す学生の指導に携わられています。また、いじめ問題やネット問題に関わる著書を上梓されているほか、多数の講演をされております。

研修会では、まず、現代の子どもたちが抱える成長上の課題、具体的にはネット事情、人間関係や問題行動から見える課題について理解を深めました。また、子どもたちの人間関係が希薄化していること、その結果として自立が遠のいてしまう可能性を知りました。様々な調査や研究から、現実社会における人間関係の満足度が高いほど、ネット依存や問題行動に陥らない傾向が見て取れるとのことでした。以前に比べると、世の中は便利になりました。コミュニケーションツールなどが発達し、簡単に連絡が取れるようになりました。しかし、現実には生活の個別化が進み集団生活が少なくなっている、その結果として相手を思いやる気持ちが薄くなったまま生活していることに気が付かず

にいるかもしれません。子どもたちを取り巻く人間関係、そして、子どもたちを支える大人たちの人間関係が豊かであることが、これからの時代にも強く求められていることを再認識しました。

次に、PTAをはじめとする地域社会の様々な集団は、家庭と社会とを橋渡しする「中間集団」であること、その「中間集団」は家庭が協働と役割を果たし豊かなコミュニティをつくるために必要な集団であることを学びました。家庭・地域の教育力低下は、家庭の孤立によってもたらされると考えられています。これまでに積み上げてきたPTA活動の意義を再認識し、子どもたちに対峙できる人間関係をつくる役割を担っていることをあらためて認識しました。私たちの活動の意義を言語化し、多くの仲間と共有していく契機にしたいと考えています。

最後に、研修会の開催にあたってご支援を賜りました一般財団法人横浜市安全教育振興会へ、この場をお借りして御礼申し上げます。



〈団体助成事業〉

子ども達の生きる力を育む事業

はまっ子スクール2021 ～JOBJOB PARK in Yokohama～ 開催

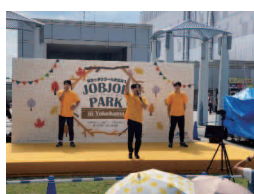
自分達が住み暮らす街「横浜」で気軽に楽しく「横浜」に関わるお仕事体験!

2021年10月3日(土) 会場:センター北芝生広場

900人を超える子どもと大人が集まり、145名の子ども達が様々な職業体験を行いました。



子ども達が自分で考え道を切り拓いていく為には、直接的な体験や沢山のひととの交流が不可欠です。横浜に関わる様々な企業や団体がそれぞれの職業を体験できるブースを完全屋外にて出展し、多彩な職業や社会・人に安全に楽しく触れることで、子ども達がリアルな体験と交流を行い生きる力を育む機会を創出することができました。



ダンスYoutuber



弁護士



花屋



水道工事屋



ネイリスト



チアリーダー



大工



塗料メーカー



農家



グッズ開発販売業者

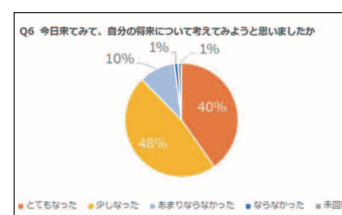
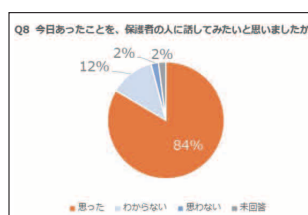
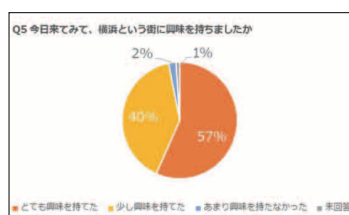
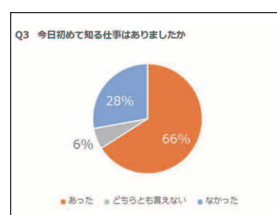


シフォンケーキ屋



カレーパン屋

参加してくれた子ども達のアンケートより



新しい職業との出会い、そして横浜の街や将来への興味を子ども達に創出することができました。また、保護者の方々と将来について語り合うきっかけづくりの創出を行うことができました。

〈団体助成事業〉

横浜市立小学校体育研究会

第2回オリ・パラスポーツフェスティバル

はじめに

令和3年11月27日(土)、第2回オリ・パラスポーツフェスティバルを横浜国際プールで開催しました。

事前に市立小学校から参加校を募集し、15校、約240名の児童がこのフェスティバルに参加しました。参加児童は4つのグループに分かれ、密を避けるなどの感染症対策をとりながら、パラスポーツの体験やオリンピック・パラリンピックに関する展示物の見学、パラリンピアンやパラアスリートの映像視聴などを行いました。

それでは、当日の活動の様子について紹介します。3つの体験コーナーでは協力団体の方々にご指導いただきました。

ブラインドサッカー体験

アイマスクを着用して体験活動を行いました。

音を頼りにコーンの位置を予測し蹴ったボールを当てる活動や友達の指示を頼りに置かれたボールを拾う活動など、日頃の生活とは異なる状況に戸惑いながらも友達と協力しながら楽しんでいました。



ボッチャ体験

ボッチャのルールを教えていただいた後、各コートに分かれてゲームを行いました。自分の投げた球がジャックボール(白球)に近づくると飛び上がって喜ぶ児童の姿も見られました。

また、引率の教職員も児童と一緒にボッチャを楽しみ、参加者全員がボッチャの魅力にふれることができました。



フライングディスク体験

ディスクの持ち方や投げ方など基本的なことを教わり、狙ったところにディスクを投げることにチャレンジしました。

アイマスクを着けたり、車椅子に座ったりしてディスクを投げる体験もしました。

投げたディスクが思い通りに飛んだときの心地よさを多くの児童が味わっていました。



展示コーナー

横浜にゆかりのあるオリンピック、パラリンピアン、パラアスリートのコーナーでは、展示物を見学したり、インタビュー映像を視聴したりしました。

競技用車椅子や聖火リレートーチの展示コーナーでは実物に触れる機会もありました。



おわりに

令和3年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されたこともあり、参加児童の競技や展示物等に対する興味・関心も高く、有意義なフェスティバルになりました。

今回のフェスティバル開催にあたりまして、多くの団体・関係機関等にご協力いただきましたのでご紹介します。

ご協力いただいた団体・関係機関等

- ブラインドサッカーチーム「buen cambio yokohama」
- 横浜ボッチャ協会 ○ かながわ障がい者フライングディスク協会
- 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール
- 市民局オリンピック・パラリンピック推進課
- 横浜国際プール ○ 横浜こどもスポーツ基金
- 横浜市安全教育振興会

「健康と安全ポスター」応募に向けた学年の取り組み ～保健学習での学びをスタートに～

横浜市立宮谷小学校 3年生

健康教育を学校の中核に

宮谷小学校は、これまで17年に渡って、健康教育を学校教育活動の中核として重点研究を進めてきました。今年度、3年生117名は、保健の学習をスタートさせる学年として、教科学習の中で学んだことをさらに深めていくために、第35回健康と安全ポスター展に向けて、ポスター作りに取り組みました。

3年生 保健学習のスタートとして

3年生は、年度初めに、校歌の中の「体をじょうぶにやさしい心」という歌詞を入口に保健学習を始めました。保健学習「健康な生活」の単元で、児童自らが主体的に健康によい生活を送るための基礎として、健康の大切さを認識し、健康な生活に関心を持ち、毎日健康に生活するための方法について考えていく中で、「健康とは、心と体の両方が調子のよい状態であること」「一日の生活リズムを整えて、運動、バランスの取れた食事、休養・睡眠を十分に心掛けた生活を続けていくことが大切」ということを学習し、その後は毎日の自分の生活につなげています。

学年の共通意識として、「自分たちにとっての健康な姿とは、自分からものごとに取り組む姿である。」と仮定し、このポスター展に向けての学習を、主体的な姿で進めてきました。

教科等を横断させた探究的な学習として

この学習では、教科等を横断させた探究的な単元づくりをしました。児童は、「横浜市のみなさんに健康の大切さを伝えるには、どんな内容が合っているのか」という視点で調べ学習をする中で、テーマを絞っていきました。

さらに、国語科の学習「ポスターを読もう」の単元で、ポスターの意味や役割、目的意識や相手意識のあるキャッチコピーについて学びました。また、図画工作科の学習では専科教員と連携して授業づくりを行い、伝えたいことを効果的に伝える画面構成を考えました。このようにして学年全員で取り組み、その中から上限である50点を選んで応募しました。

総合的な学習の時間の取り組みにつなげて

ポスター展後には校内に掲示し、健康な生き方を他学年、地域へと呼びかけていくことにしております。また、その後に続いた総合的な学習の時間の取り組みの中で、これらの作品を使って健康を広げる活動を進めています。

宮谷小学校では、次年度以降も、こうした取り組みを続け、自ら健康な生き方をつくる児童の資質・能力の育成につなげていきます。



第35回 「健康と安全」ポスター展

展示期間: 令和3年12月14日(火) ~ 令和4年1月31日(月)

展示会場: 安振会ホームページ上

表彰式会場: 関内新井ホール

応募点数: 703点

受賞作品: 特別賞14点 入選11点 佳作11点

審査委員: 横浜市教育委員会 小中学校企画課主任指導主事 中澤 務 先生

横浜市小学校図画工作教育研究会会長 江口 知良 先生(横浜市立下末吉小学校長)

横浜市立中学校教育研究会美術科部会会長 本江 伊智郎 先生(横浜市立港南台第一中学校副校長)

受賞作品



横浜市長賞



きれいな川が好き
汐入小学校6年 岩田 悠香



横浜市長賞



もったいない
緑が丘中学校3年 吉濱 美玖



横浜市長賞



外であそぼう
小雀小学校4年 山田 明咲



横浜市長賞



30年後の海
藤の木中学校1年 星原 大輝



横浜市教育局賞



みんなでしぜんをまもろう
新羽小学校2年 石山 楓花



横浜市教育局賞



この景色を永遠に
緑が丘中学校3年 藤田 麻衣



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



地球を守ろう
三保小学校6年 鵜野沢 莉奈



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



時く火の種 火事の種
笹下中学校3年 漆原 つぐみ



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



コロナウイルスをやっつける!!
中丸小学校1年 加藤 蓮ノ介



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



もしものの時の命綱
緑が丘中学校3年 藍原 滯



神奈川新聞社賞



環境保全
矢部小学校5年 望月 昊



神奈川新聞社賞



拾うのは、人間だけ?
仲尾台中学校3年 間宮 琉稀



審査員特別賞



しぜんをまもろうね!
横浜国立大学附属横浜小学校2年 田代 芽愛



審査員特別賞



スマホじゃなくて前を見よう
笹下中学校2年 渡邊 萌々香

令和3年度 加入状況

校 種	賛助会員数	世帯数
小 学 校	337	140,332
中 学 校	131	65,311
高 等 学 校	5	4,200
特別支援学校	12	1,394
総 計	485	211,237

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる)

令和3年度 評議員名簿

役職名	氏 名	備 考
評議員	小佐野和人	横浜市立中学校長会 (総務・横浜市立上郷中学校長)
評議員	石塚 慶和	横浜市PTA連絡協議会(副会長)
評議員	大槻 繁美	学識経験者((公財)よこはまユース 業務執行理事・事務局次長)
評議員	吉備 カヨ	学識経験者(元教育委員、(公財)横浜市 スポーツ協会副会長、認定NPO法人ス ペシャルオリムピックス日本・神奈川理事)
評議員	松本 豊	学識経験者(横浜子ども会連絡協 議会会長)
評議員	小泉 力也	学識経験者(神奈川県立高等学校安 振会評議員)
評議員	大塚 尚子	横浜市教育委員会代表(総務課長)
評議員	島田 潤	横浜市PTA連絡協議会(書記)

令和3年度理事・監事・審査委員名簿

役職名	氏名	備考	
理 事 長	横田 竜一	学識経験者	○
副理事長	豊田 則夫	学識経験者	○
副理事長	竹本 靖代	学識経験者	○
専務理事	山元 泰弘	(一財) 横浜市安全教育振興会事務局長	○
常務理事	斎藤 博栄	学識経験者	○
理 事	鈴木 秀高	学識経験者	
理 事	生田 麻実	学識経験者	
理 事	海上 良太	学識経験者	
理 事	樋口眞砂子	学識経験者	
理 事	鈴木 進	学識経験者	
理 事	菅野 陽子	学識経験者	
理 事	重田 英明	横浜市立小学校長会(副会長)	○
理 事	高橋 浩二	横浜市立中学校長会(副会長)	○
理 事	福島 豊	横浜市立特別支援学校長会(理事)	
理 事	秋好 直樹	横浜市PTA連絡協議会(会長)	○
理 事	青柳 寛子	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	○
理 事	白石 洋子	横浜市PTA連絡協議会(書記)	
監 事	水島 貴志	横浜市立小学校長会(副会長)	
監 事	長谷山秀信	横浜市PTA連絡協議会(会計)	

○印は審査委員兼務

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦	
審査委員	戸塚 武和	横浜市医師会推薦	
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦	

令和3年度 上期 供花料等給付一覧表

(令和3年4月1日～令和3年9月21日)(単位 円)

給付別種・事由		対 象	給付件数	給付額
供花料等	(1)児童生徒供花料	児 童	2	60,000
		生 徒	3	90,000
	(2)保護者供花料	小学校	41	1,230,000
		中学校	25	750,000
		高校・特別支援	1	30,000
	(3)教職員供花料		0	0
	(4)証明書代等		31	61,400
合 計			103	2,221,400

費 目		件 数	金 額
手数料等	(1)振込手数料	95	44,440
	(2)その他の手数料	0	0
合 計		95	44,440
支 払 総 額			2,265,840

令和3年度 上期 共済 見舞金等給付一覧表

(令和3年4月1日～令和3年9月21日)(単位 円)

給付別種・事由		対 象	給付件数	給付額
1 児童生徒事故見舞金	(1)傷害事故	児 童	1,051	12,860,580
		生 徒	83	1,265,840
	(2)障 害	児 童	0	0
		生 徒	0	0
	(3)交通事故	児 童	20	63,603
小 計			1,155	14,193,023
2 児童生徒弔慰金	(1)学校管理下外 事故死	児 童	0	0
		生 徒	2	1,000,000
	(2)交通事故死	児 童	0	0
		生 徒	0	0
	(3)登下校中の事故死 (交通事故を含む)	児 童	0	0
小 計			2	1,000,000
3 PTA主催共催事故見舞金	(1) 傷害事故		2	13,900
	(2) 障害		0	0
	(3) 交通事故		1	3,000
	(4) 事故死		0	0
	(5) 往復途次の交通事故死		0	0
	(6) 病死等		0	0
	小 計		3	16,900
4 学校特別協見舞金	(1) 特別負傷見舞金		0	0
	(2) 特別交通事故見舞金		0	0
	(3) 死亡弔慰金		0	0
小 計			0	0
合 計			1,160	15,209,923

費 目		件 数	金 額
手数料等	(1)振込手数料	942	322,410
	(2)その他手数料	0	0
合 計		942	322,410
支 払 総 額			15,532,333

※部活動中の負傷見舞金給付は上期は申請がありませんでした。

安全教育推進団体に対する助成

令和3年12月現在 (単P・区部助成は令和4年1月現在)

申請のあった単位PTAに対する助成 1校4万円(上限) 232校	9,259,691
区・部会PTA講演会研修会等助成	2,337,800
横浜市PTA連絡協議会事業助成	1,450,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」	300,000
横浜市立中学校長会指導部・研修部	300,000
横浜市立特別支援学校長会「専門研究事業」	300,000
(一社)横浜すばいす「横浜の子どもが作る弁当コンクール」「はまみらいラボ子ども会議」	300,000
(一社)横浜青年会議所「はまっ子スクール2021～JOBJOB PARK in Yokohama～」	300,000
横浜市立小学校オリ・パラススポーツフェスティバル	300,000
よこはま学校食育財団「食育推進事業親子料理教室」	70,000
第9回yokohama地域学校協働活動フォーラム	20,000

令和3年度 区部会事業助成一覧

区名	開催日	事業名	会場
神奈川	11/27	親子で楽しくアイススケート体験 ファミリーコンサート	横浜銀行アイスアリーナ カナックホール
西	12/23～2/28	講演「海洋プラスチック汚染と子どもたちの未来の海！」 講師 豊田 直之	オンライン
港南	1/22	全体研修会「身近な仕事の実態に迫る！」	ウィリング横浜・ オンライン
旭	通年	コロナウイルス感染予防(手指消毒の配布)	各学校
磯子	12/1～3/31	コロナウイルス感染予防(手指消毒の配布)	各学校
金沢	12月～1月	金沢区安心安全学校応援プロジェクト(コロナウイルス感染予防)	各学校
港北	10/30	こうほくオンラインフェス	オンライン
緑	1/19	指導者全体研修会 講演「もしもPTAがなくなったら…」 講師 能城 順一	オンライン
都筑	1/18	合同研修会 講演「『自律する子の育て方』のミソ」 講師 工藤 勇一	オンライン
戸塚	12/3	活動交流会全体会 講演「家庭ではなそう命のおはなし～助産師さんによる性教育講座」 講師 高野 しのぶ	オンライン
栄	11/12～3/1	幹事会・指導者研修会・こども110番の家事業・全体研修会 講演「ペップトーク～こどもの心が震える励ましのメッセージ～」 講師 岩崎 由純	栄区役所・あーすぶらざ等
高校	11/12	横浜市立高等学校PTA連絡協議会秋季研修会 講演「環境社会学の魅力と課題～命と心のツーリズムへ！～」 講師 青木 辰司	横浜商業高校講堂

令和3年度 修学奨励金の給付

小学校	156人	30,000	4,680,000
中学校	131人	40,000	5,240,000
高等学校	20人	60,000	1,200,000
特別支援学校	24人	40,000	960,000
計	331人		12,080,000

令和3年度 賠償事故状況概要 (12月末日現在)

総数	校内	校外	対人	対物			
				自動車	ガラス	メガネ	その他
21	2	19	8	9	1	0	3
ガラス破損の内訳				自動車損傷の原因			
校内 1件		校外 0件		自転車	ボール	石	その他
小学校	中学校	小学校	中学校	1件	0件	1件	7件
1件	0件	0件	0件				
自転車事故の内訳							
対車		対人		その他			
1件		2件		2件			

安全教育団体に対する助成

各団体における活動の一コマ

単P事業助成

横浜市立戸部小学校

事業名 ▶ ふれあいの夕べ

今年度は本校児童・保護者のみの参加とし、完全入れ替え2部制で、時間も各1時間で実施しました。マスクの徹底、又、各ブースに消毒スプレーを設置、販売は、ゲームと飲み物のみに制限しました。色々なことが制限される中、開催に向けてみんなで考案、検討し、実施に至りました。1時間という限られた時間でしたが、2年ぶりのお祭りで子どもたちはとても楽しんでくれました。



単P事業助成

横浜市立義務教育学校

西金沢学園・中学部

事業名 ▶ 陶芸教室

講師として、陶・造形作家の桜井ケンイチさんをお招きして、陶芸教室を行いました。今年は、コロナ感染予防で、広く地域の方にお声がけすることは控えましたが、義務教育学校であることを生かして、当日は小・中学生とその保護者40名ほどを、2つの部屋に分けて実施することができました。陶芸の基本を学び、それぞれの思いを込めて、楽しく作品をつくりました。



安振会年間事業

R3年度救急法教室



第35回ポスター展表彰式

